

第2編 染用薬品

織物を製造するに当って、色々な薬剤が使用されているがここでは大島紬に関連のある薬剤について述べることにしたい。

第1章 精練剤

精練剤とは、繊維その他染色材料に含んでいる不純物を除去する作用をする薬剤で、大島紬の原料絹糸は、生糸をこの薬剤で精練した糸を大島紬に使用するのである。その主なものは、石鹼、炭酸ソーダ、苛性ソーダ、モノゲン等である。

第2章 助 剤

染色の際、染料の染着を促進させ、染色を濃厚にする作用をする薬剤で、合成染料で染色する色大島紬はこの助剤を加えて染色する。

その主なものは、酢酸、硫酸ソーダ、食塩、蟻酸等である。

第3章 界面活性剤

活性剤とは、浸透、湿潤、乳化、可溶性作用等をなす薬剤である。その一例を記すと水に油を加えると、油は水の表面に浮いている。これは油と水の表面が張力するため壁ができ、油と水がなじまないためである。それでこの壁を破壊して水と油がなじむようにするとか、繊維が水になじみ易くなるとか、逆に染着をゆるめてムラ染を防止するとか、染色を堅牢にする等の薬品である。

その主なものは、アミラジン、アゾリン、オリノール、モノゲン、グリエシン、プレスタピットオイル、石鹼等である。

第4章 平滑剤

織物の仕上げ加工及び製織における滑りや柔軟性を良くする薬剤で、大島紬には泥染緋を解き易くする処理や泥染紬の仕上げ（ユジャ）に使用されている。

その主なものは、ライトシリコン、シリコーラン、オリーブ油、種油、パスラン等である。

第5章 糊 剤

大島紬には、緋加工用うす糊及び緋締め用堅糊、仕上げ糊、摺込液調製用等に使用されている。

その主なものは、カゼネート、フノリ、イギス、メイプロガム、セロゲン等である。

第6章 還元剤

他の物質に水素を与えるか、又はその物質から酸素を取り白くす薬劑で、大島紬の抜染白紬や泥藍緋の部分抜染、さらには摺込抜染等はこの還元剤で抜染する。

その主なものは、ヒドロサルファイト、デグロリン、ロンガリット、ブランキット等である。

第7章 媒染剤

媒染剤とは、染料と繊維との間の引力の媒介をする薬劑で、泥染紬を染色する泥田の鉄分や植物染料染色の明ばん等がこの薬劑である。

その主なものは、明ばん、硫酸鉄、木酢酸鉄、鉄硫酸銅、クローム明ばん等である。

第8章 固着剤

固着剤とは染料の可溶性なものを不溶解性にし、固く繊維に附着させる作用をする薬劑で、泥染における石灰処理や植物染料の固着剤及び色大島紬の色止めに使用されている。

その主なものは、消石灰、吐酒石、シルクフィックス、アミゲン、重クローム酸加里等である。

第9章 漂白剤

漂白剤とは繊維にある有色物を退消させて白色になす薬劑で、大島紬の緋締め用、シルケットガス糸はこの薬劑で白くする。

その主なものは、晒紛、過酸化水素、ブリッチ等である。